

# 会報 なかさ と

E-mail nakasatokouryusenta@net1.jway.ne.jp

中里学区コミュニティ推進会  
 発行責任者 石川 諒一  
 編集事務局 後藤 寛明  
 TEL 0294-70-8005

中里学区人口 現在  
 世帯数 384 世帯  
 総人口 855 人  
 男 406 人 女 449 人

## 会場の様子

式では日立市生活環境部部長菊池善様はじめ多くのご来賓の方々からご挨拶をいただき、様々な角度から中里地区内の活動に際して好意的なメッセージが寄せられました。乾杯の挨拶の後、しばしの歓談。さらさらの会の皆様による大正琴による演奏と岩田ナミ様による詩吟。令和8年の中里地区の門出を祝う、非常に良い式典でした。



## 第100回中里地区囲碁・将棋大会開催される

令和8年1月17日、中里交流センターにて第100回中里地区囲碁・将棋大会が開催されました。記念すべき節目となる大会、新春の空気の中、真剣にそして楽しく行われました。囲碁や将棋は非常に頭を使う娯楽であり、認知症予防や他者との交流、コミュニケーションを積極的に重ねることができフレイル予防にも繋がります。



## ～将棋の部～

- 1位 与沢さん
- 2位 関さん
- 3位 増子さん

## ～囲碁の部～

- 1位 石井さん
- 2位 石川さん
- 3位 野沢さん



## 令和8年度新春顔合わせ会を実施しました

令和8年1月9日、中里交流センターにおきまして、日立市生活環境部長菊池善様はじめ来賓者と学区内の皆様に参加しコミュニティ推進会の益々の発展を誓い新春の顔合わせ会を行いました。冒頭に石川諒一会長より挨拶がありました。

## ～新春のご挨拶～

新年あけましておめでとうございます。中里学区の皆様には、ご家族一同で今年こそはと期待に燃える2026年の新春を迎えられたことを心より喜び申し上げます。コミュニティ推進会会長として十期19年目を迎え、役員・幹事の皆様とともに構築してまいりました各種事業につきましては、変らぬご支援ご協力を賜りありがとうございます。また、昨年は、日立市コミュニティ推進協議会が設立50周年を迎え11月1日に記念式典と記念講演が開催され、中里学区からも4名の方がコミュニティ活動功労者表彰を受賞しました。これもひとえに、中里学区の全世帯の皆様のご理解の賜物であり深く感謝申し上げます。

災害や異常気象は毎年激甚化し全国どこでも発生し過去の経験からは予想できない台風の移動経路、線状降水帯の発生、特に猛暑は6月～8月の平均気温が歴代最高を記録し、台風シーズンには静岡県、熊本県に洪水災害、災害級地震も北海道、岩手三陸沖、トカラ列島、熊本で発生、年末の香港の火災など大きな火災が多発した2月の大船渡市の山林火災、佐賀関の市街火災災害に見舞われました。昨年からは急増した「熊」被害は史上最悪でケガ人219人から230人に、死亡者も6人から13人に急増し、災害級扱いとなり「緊急統

されました。昨年の日本国は、大阪・関西万博が開催され、訪日外国人は史上最高の3000万人を超え、オーバーツーリズム、マナー違反など外国人規制が参議院選挙の争点になりました。参議院選挙では自公与党は大敗し、公明が連立離脱、維新が連立合意し、石破総理が退陣して女性初の高市総理大臣が誕生しました。経済においては、高市株として日経平均が5万円を突破し、円安が進行し、米価額など物価高が止まりません。中里学区は、現状に見合った住みよい地域を目指して再生資源の当番制を廃止し、地域の体育祭、文化祭、ふれあい祭りを1日にまとめて「オータムフェスティバル」として第2回目を盛大に開催することができました。中里小中学校も体育祭、文化祭など順調に開催され地域の皆様にも元気を与えて頂きました。災害・事故・犯罪防止に当たっては、民生委員やその他各種委員や消防分団や中里駐在所の皆様には大変お世話になり感謝いたします。本年も皆様ご家庭が火災、交通事故、金融トラブル等に留意してご健康・ご多幸で過ごされ、中里学区のために小さな助け合い・ボランティアにご協力いただきたくよろしくお願い致します。

以上



令和7年度中里地区防災訓練を実施しました

令和7年12月13日 令和7年度中里学区防災訓練が実施されました。学区防災部、西部地区消防署、地区内各消防団、コミュニティ、小中学校の合同で行われ、座学では雨水水害時の対策が語られハザードマップの活用など普段意識しないことですが、非常時に役に立つことを学びました。また体育館内では仮設テント設営体験、グラウンドでは煙道体験や消防車・救急車見学、消火訓練など体験を通じて多くの小中学生が体を動かしながら防災というものを意識する機会を得て、中でも普段は入れない消防車や救急車を見学した時は驚きの声が上がったのが、とても印象的でした。



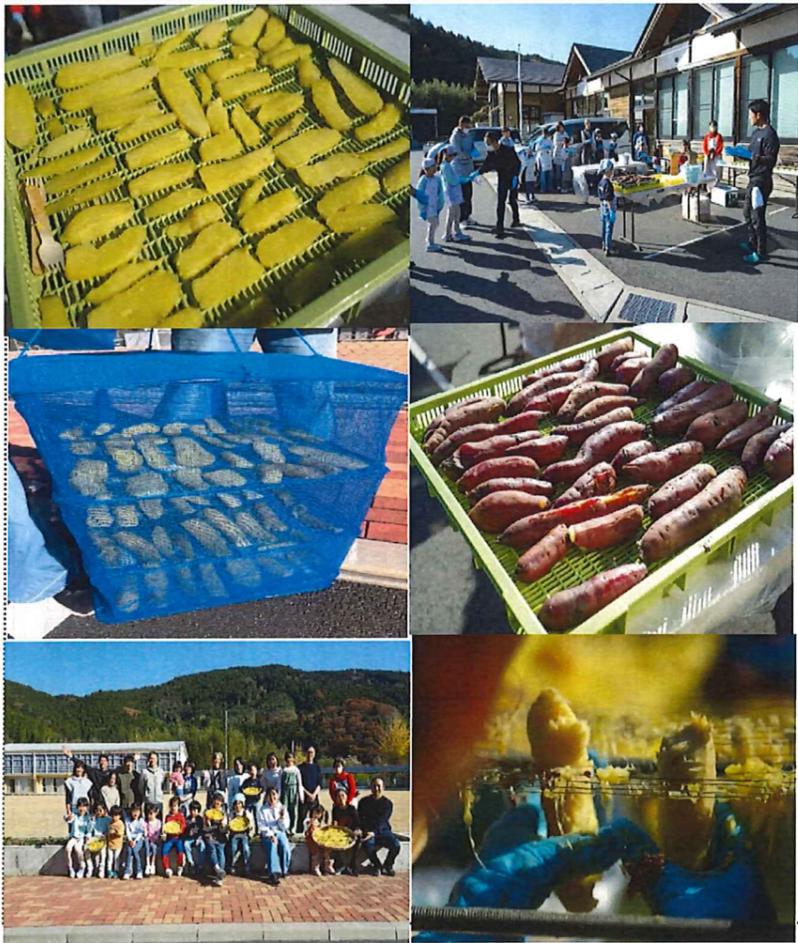
青少年育成部主催 まゆ玉飾りを実施しました

令和8年1月24日 中里交流センターにおいてまゆ玉飾りが実施されました。50名以上の子供たちや保護者、地域の方々の参加があり非常に盛り上がりしました。前日から青少年育成部の方々の準備や当日の運営、本当にお疲れさまでした。私自身、旧中里小学校を卒業して約25年、つまりほとんど四半世紀ぶりに見ましたが、紅白の鮮やかなコントラストのまゆ玉の木は壮観でした。来年度も是非多くの方に参加してもらえたら幸いです。



中里ファンクラブの活動紹介

昨年より、中里に移住してきた元地域おこし協力隊の赤羽さん(下深荻町在住)神田さん(中深荻在住)の二人を中心に中里ファンクラブが結成されました。令和7年11月30日に交流センターにて干し芋づくりが開催。中里内外から8家族(大人10名・子供15名)が参加、真剣に、わいわい楽しみながら干し芋を作りました。写真から見てもわかる通りプロ顔負けの干し芋づくり。お土産もたくさん持ち帰り参加した家族全員よい思い出になりました。中里ファンクラブはほかにも田植えや稲刈り、干し芋づくりのためのさつまいも定植や収穫体験などのイベントも中里地区で行っています。インスタグラムもやっているので興味ある方は是非、見てみてください！



水戸ホーリーホックのJ1昇格に際して 20年来のとあるサポーターの視点から

令和7年11月29日水戸ホーリーホックがJ2優勝を決め、J1昇格を果たした。待ち望んだ瞬間、それを現地で見えた瞬間、不思議と涙が出た。喜びというより、何か長い間、胸の奥に引っかかっていたものが、ようやく抜けような感覚だった。思えば平成17年、高校一年生の秋。水戸駅前、ホーリーホックの選手が必死にチラシを配っていた。「ぜひ試合を見に来てください」と。その姿に、なぜか心を動かされた。友人を誘ってスタジアムに足を運んでみると、観客はスタジアムの一割程度。ガラガラの客席から飛び交う激しいヤジ、酒とタバコの臭い。まるで昭和の地方競馬場のような空気があった。試合も大敗。正直、華やかなものではなかった。学校でサッカー好きの友人と話す時、決まって「水戸はダメだよ」と言われた。話題はすぐに、同じ県内の鹿島アントラーズに移る。Jリーグを代表する強豪。タイトルを総なめにする王者。誰もが鹿島を称賛し、水戸の名前は笑いのネタにすらならなかった。鹿島というチームに恨みがあるわけではない。素晴らしいチームだと思ふ。友人たちに悪い感情があるわけでもない。ただ、どうしても自分にはできなかった——強いから、有名だから、といって鹿島を持ち上げ、水戸を見下すようなことが。幼いころの経験から私は強い傘の下に入って強者のふりをし、弱者をいたぶるということが本当に大嫌いだった。その記憶が、無意識のうちに私を突き動かしていたのかもしれない。誰も振り向かない、誰も期待しない、ガラガラのスタジアムで戦い続けるチーム。そのチームを応援することに、私は強烈なアイデンティティを求めていたのだと思う。あれから20年。水戸ホーリーホックは決して順風満帆ではなかった。J2の中位や下位を行ったり来たり。降格の危機もあった。それでも、消えることなく、戦い続けた。そして令和7年、ついに悲願のJ1昇格とJ2優勝。思えば、私が水戸ホーリーホックに求めたものは、勝利ではなかったのかもしれない。弱くても、不器用でも、消えずに在り続けること。自分の足で立ち続けること。その姿勢そのものだった。そして、水戸ホーリーホックはJ1という大舞台に立つ。大敗するかもしれない、降格するかもしれない。それでもいい。20年前、あのガラガラのスタジアムで戦い続けたチームは、消えることなく、ここまで来た。今はその事実だけでいい。